



TITLE:

Annual Report of the Institute for Virus
Research, Kyoto University, Volume.50, 2007(
コンピューターネットワークシステム)

AUTHOR(S):

CITATION:

Annual Report of the Institute for Virus Research, Kyoto University, Volume.50, 2007.
Annual Report of the Institute for Virus Research, Kyoto University 2008, 50

ISSUE DATE:

2008-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65630>

RIGHT:

ウイルス研究所コンピューターネットワークシステム Computer Network of Institute for Virus Research

ウイルス研究所ネットワークシステムは、淀井教授、真木講師、竹本助教、相楽技官より構成されるネットワーク委員会によって管理され、ウイルス研究所、附属ゲノム医学センターおよび医学部分子医学専攻の3部局が含まれる分子生物学実験研究棟、および動物実験棟へサービスを提供している。

本研究所 LAN は、SUN ワークステーション、LINUX および ウィンドウズサーバーなどを用いて、メールサーバー・WWW サーバー等を運用しているが、高速性・機能性・安全性を満たすサービスの提供が第一と心がけてきた。

昨年度までに本館や分子生物学実験研究棟のネットワークスイッチ・ケーブルをすべてリニューアルし、ネットワーク設備の改善がなされた事をふまえ、今年度は WEB 環境を活かしたサービスの提供や認証送信サービスなど、ユーザーの利便性の向上を心がけた。一例として、研究に欠かすことのできないコミュニケーションを本研究所ネットワークのユーザーが研究所外からも手軽に、かつ安全に取れるように、WEB メールをはじめとする柔軟なメールサービスを提供した。また、所内向けの WEB サーバには、各種事務広報や事務手続き、所外のセミナーやシンポジウムなどの情報を効率性を考慮して掲載し、本研究所で研究する様々な研究科の院生や研究者にとって便利で機能的な情報サイトになるよう腐心した。このような研究活動支援としての役割に加え、研究所の知的情報資産を社会に還元していく広報メディアとしての役割をいかに果たすか、が今後の課題であろう。

さて、多くの事件が世間を賑わすように、近年ネットワークサービスを保証する上で情報の管理が大変重要になっている。個人情報に言及するまでもなく、資産としての情報の価値がますます大きくなっていく社会に我々は立っている。京都大学全学情報セキュリティ委員会の発足に伴い、当研究所においても情報セキュリティポリシー実施手順書が設定されたが、安全性の高いネットワーク運営のためには、ハードウェアの管理や脆弱性の点検に加え、ネットワークに対する不正アクセスや著作権物の不正入手などを冒さないユーザーのモラル教育など、我々管理グループだけでなくユーザー全体の意識向上が望まれる。毎年新規ネットワーク登録者向けにネットワーク講習会を開催しているが、年に一度の講習会ではなかなか意識に浸透しないようでもある。今年度から正式運用が始まった京都大学情報セキュリティ e-Learning を手始めに、セキュリティに対する意識の向上を図りたいと考えている。